

Ⅲ 特 集

東日本大震災後の都民の消費の動き
(全世帯)

Ⅲ 特集 東日本大震災後の都民の消費の動き（全世帯）

平成 23 年の東京都生計分析調査の結果を基に、3 月 11 日に発生した東日本大震災後の都民の消費の動きについて、①一時的に支出が増加したもの、②一時的に支出が減少したもの、③一時的に支出が増加した後も増加が続いているもの、の三つに大別し、主な品目について見てみた。

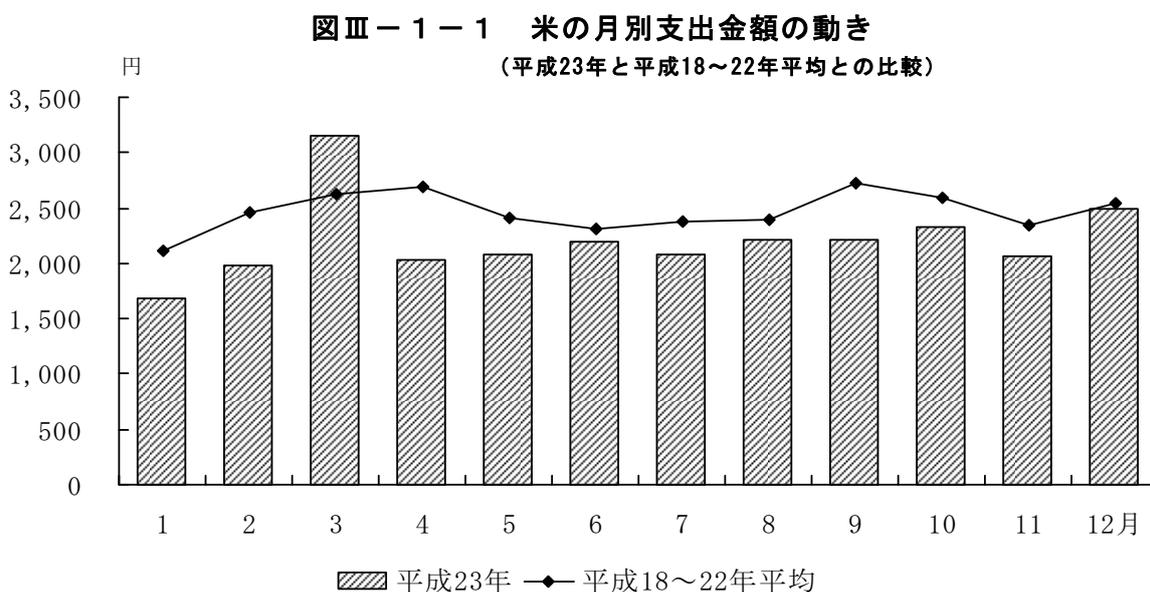
さらに、原子力発電所の事故後関心が高まった節電に関連した品目及び寄付金についても見てみた。

この結果、以下のとおり、震災直後、買い控えや情報不足によるまとめ買いなどにより一時的に都民の消費行動に変化が現れた。

注) 以下、項番の品目に続く()内は 10 大費目別の分類を示す。

1 一時的に支出が増加したもの

(1) 米（食料）

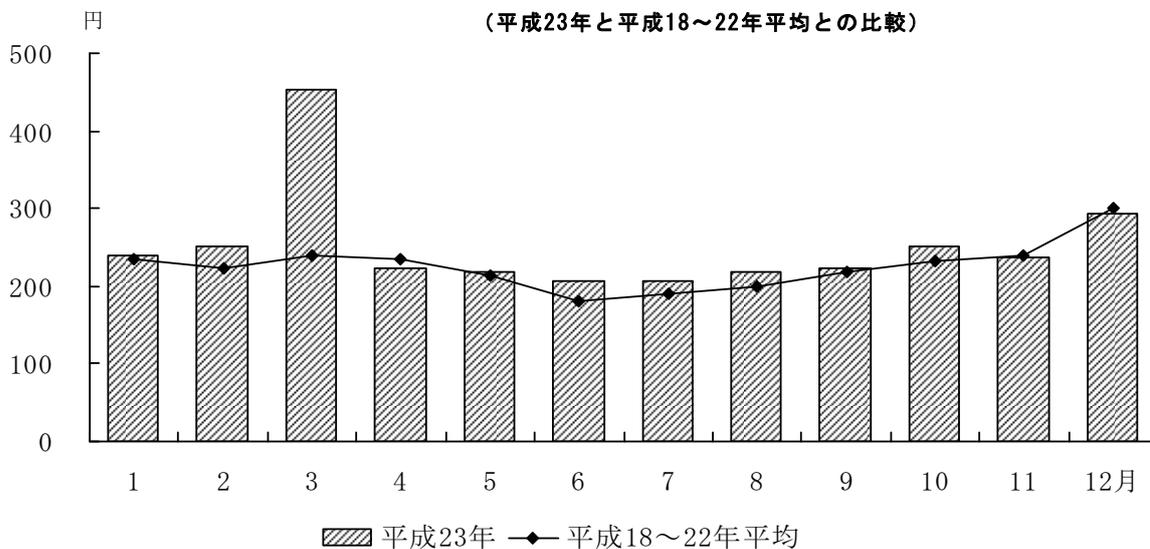


米の支出金額は、3 月に一時的に急増した。

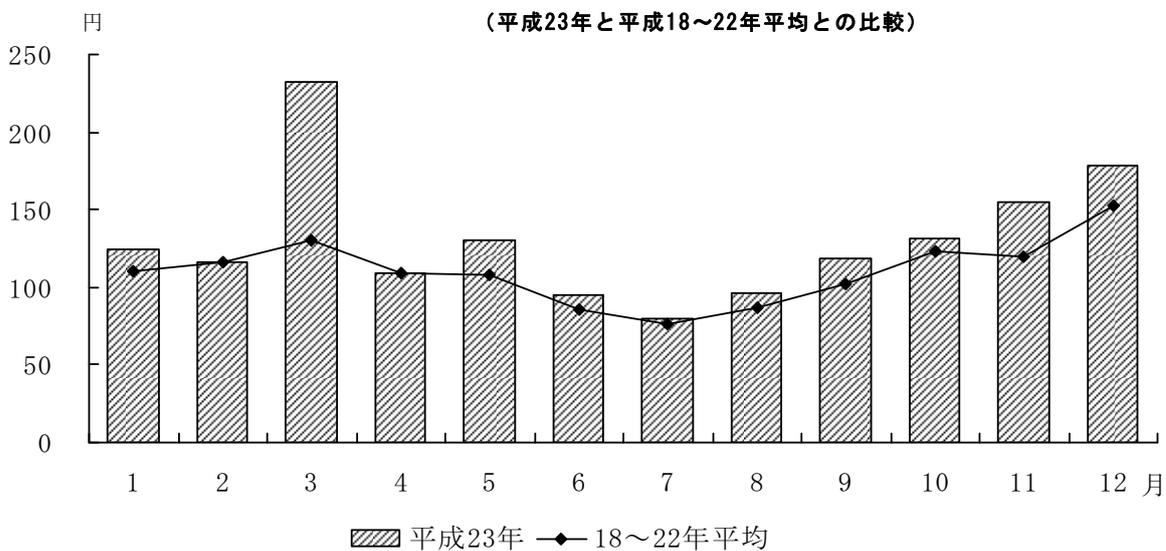
(図Ⅲ－1－1)

(2) カップめん、即席めん（食料）

図Ⅲ－１－２－１ カップめんの月別支出金額の動き
（平成23年と平成18～22年平均との比較）



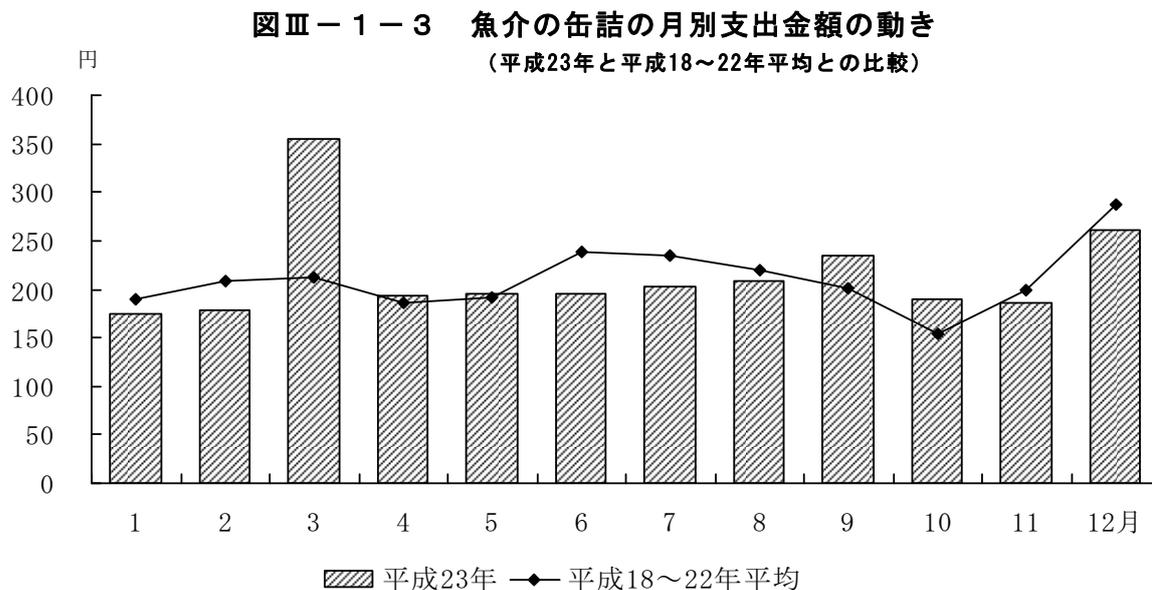
図Ⅲ－１－２－２ 即席めんの月別支出金額の動き
（平成23年と平成18～22年平均との比較）



カップめんや即席めんの支出金額についても3月に一時的に急増しており、災害に備えた備蓄食糧などとして購入されたものと思われる。

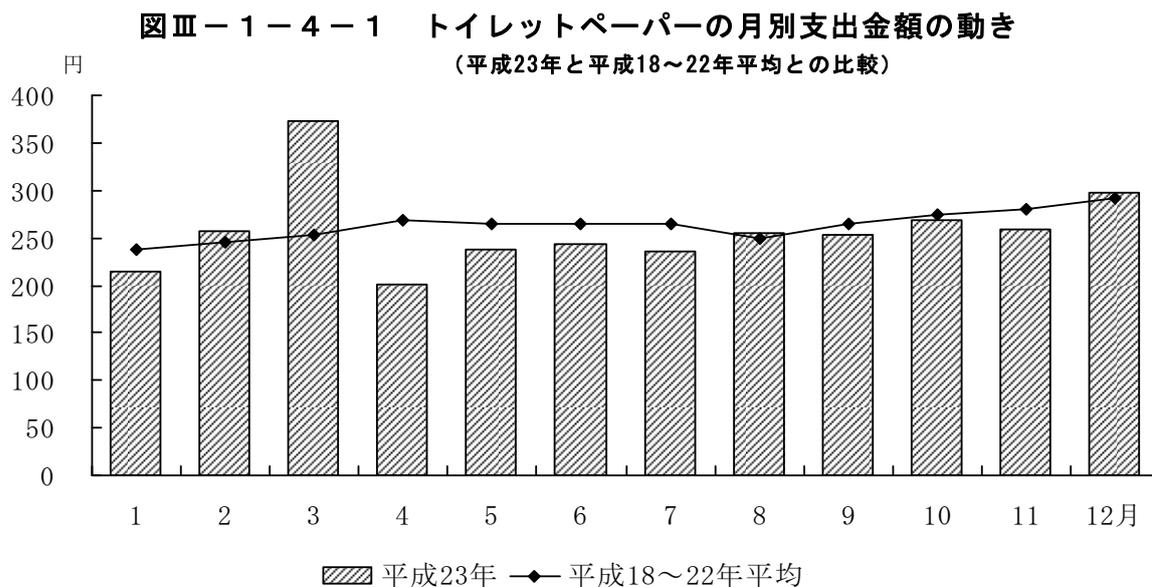
(図Ⅲ－１－２－１、図Ⅲ－１－２－２)

(3) 魚介の缶詰（食料）

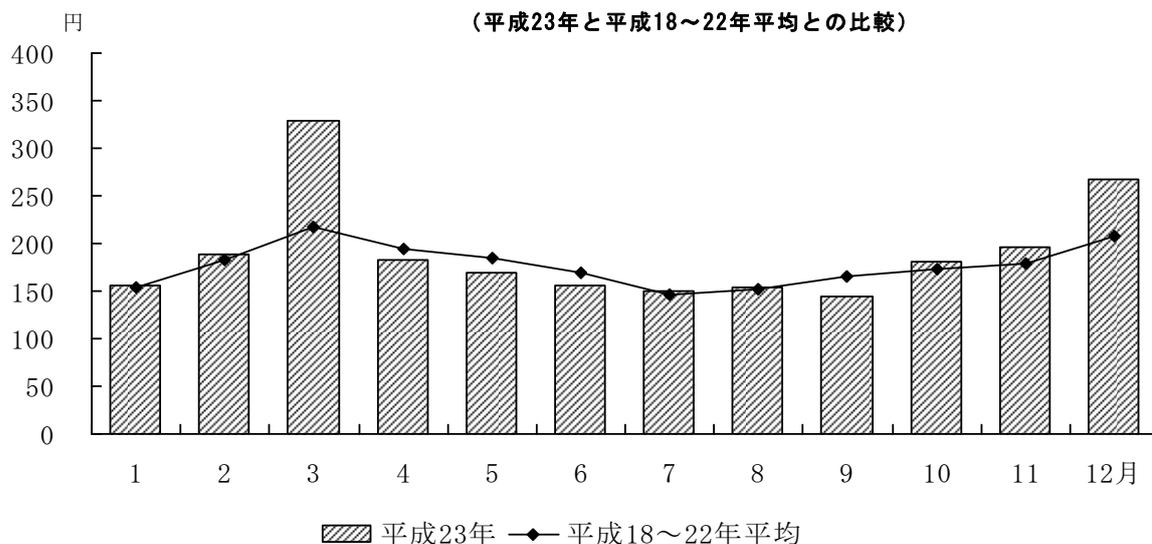


魚介の缶詰の支出金額も3月に一時的に急増した。 (図Ⅲ－１－３)

(4) トイレットペーパー、ティッシュペーパー（家具・家事用品）



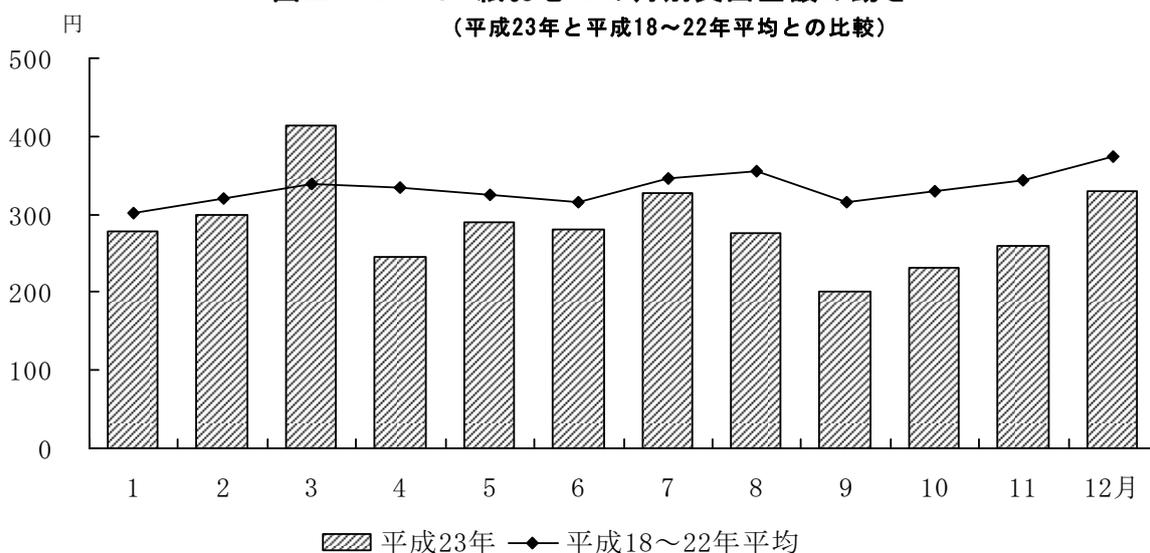
図Ⅲ－１－４－２ ティッシュペーパーの月別支出金額の動き
 (平成23年と平成18～22年平均との比較)



トイレットペーパーやティッシュペーパーの支出金額についても、震災のあった3月に急増しており、その他の各月については、過去の平均とほぼ同様な動きであった。
 (図Ⅲ－１－４－１、図Ⅲ－１－４－２)

(5) 紙おむつ (保健医療)

図Ⅲ－１－５ 紙おむつの月別支出金額の動き
 (平成23年と平成18～22年平均との比較)



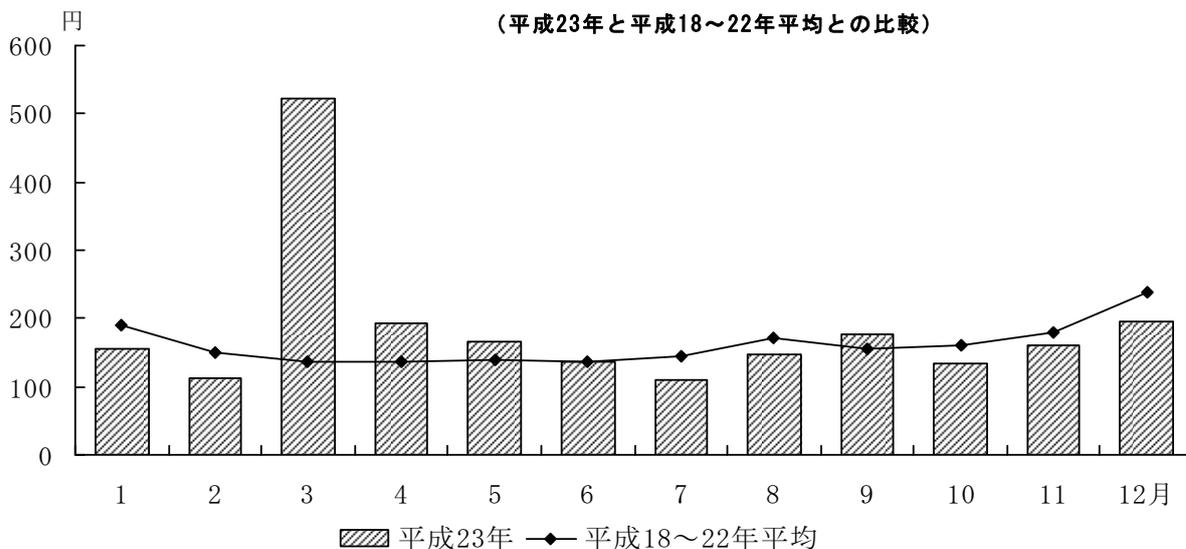
紙おむつの支出金額についてみると、3月は過去の平均を上回って増加したものの、3月以外の各月については、過去の平均を下回った。

(図Ⅲ－１－５)

(6) 電池（教養娯楽）

図Ⅲ－１－６ 電池の月別支出金額の動き

（平成23年と平成18～22年平均との比較）



電池の支出金額をみると、震災が起きた3月に一時的に急増しており、3月以外の各月については、過去の平均と同様な動きであった。震災発生後まもなく実施された計画停電や、災害に対する備えとしての一時的な購入によるものと思われる。

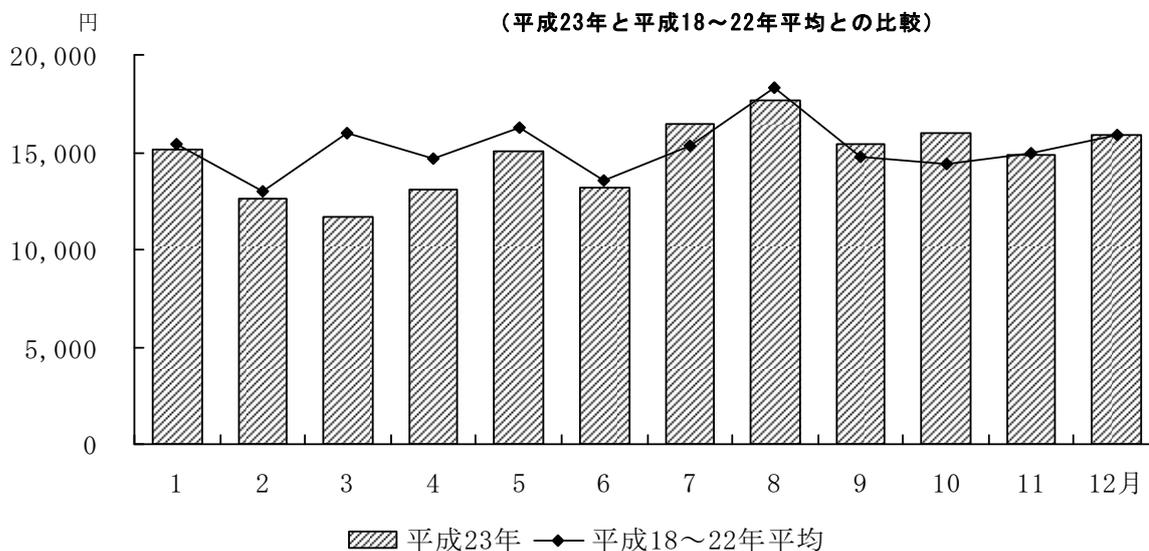
（図Ⅲ－１－６）

2 一時的に支出が減少したもの

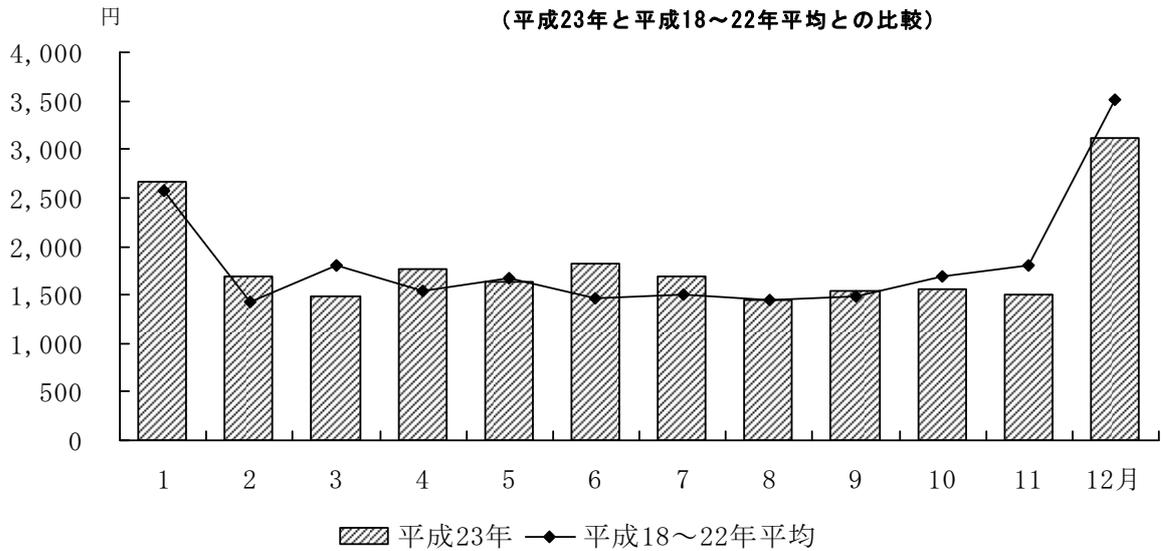
(1) 食事代、飲酒代（食料）

図Ⅲ－２－１－１ 食事代の月別支出金額の動き

（平成23年と平成18～22年平均との比較）



図Ⅲ－２－１－２ 飲酒代の月別支出金額の動き
(平成23年と平成18～22年平均との比較)

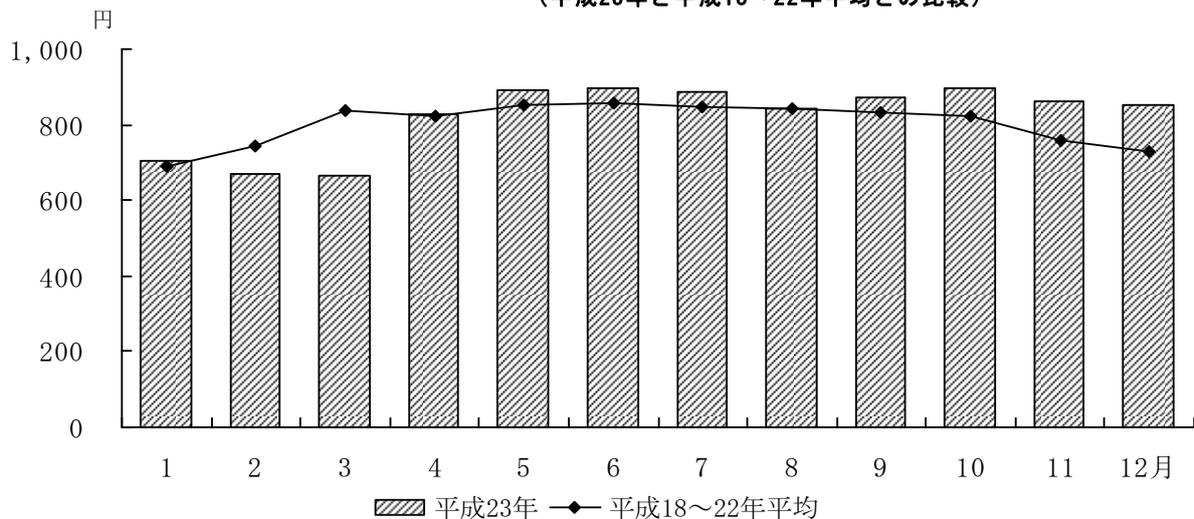


一般外食のうち、食事代と飲酒代の支出金額についてみると、ともに3月に減少したが、その後は過去の平均とほぼ同様な動きであった。

(図Ⅲ－２－１－１、図Ⅲ－２－１－２)

(2) ヨーグルト (食料)

図Ⅲ－２－２ ヨーグルトの月別支出金額の動き
(平成23年と平成18～22年平均との比較)



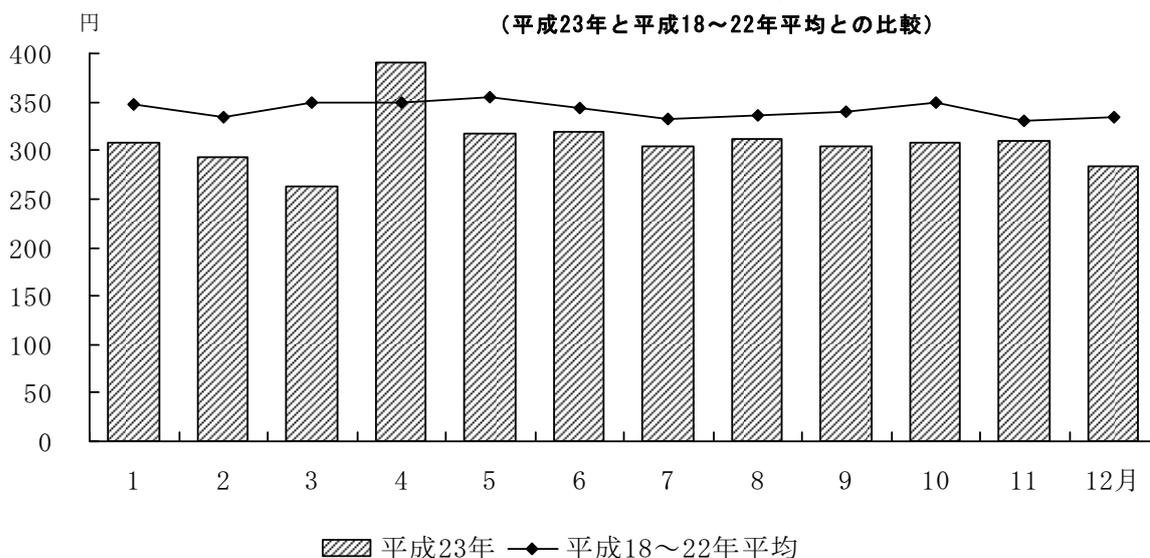
ヨーグルトの支出金額をみると、3月は減少したものの、4月以降は過去の平均とほぼ同様な動きであった。これは、生産工場が被災したことや計画停電などにより、品薄状態が続いたことなどが影響したものと思われる。

(図Ⅲ－２－２)

(3) 納豆（食料）

図Ⅲ－２－３ 納豆の月別支出金額の動き

（平成23年と平成18～22年平均との比較）



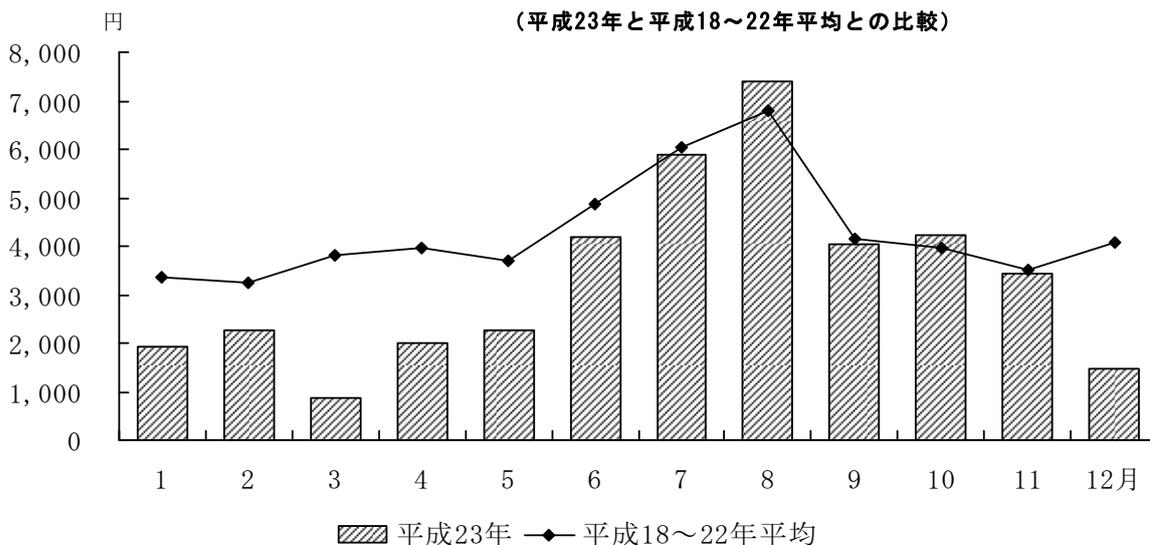
納豆は、3月に減少したものの4月には一時的に支出金額が増加した。生産工場や容器メーカーの被災などが影響したものと思われる。

(図Ⅲ－２－３)

(4) 国内パック旅行費（教養娯楽）

図Ⅲ－２－４ 国内パック旅行費の月別支出金額の動き

（平成23年と平成18～22年平均との比較）



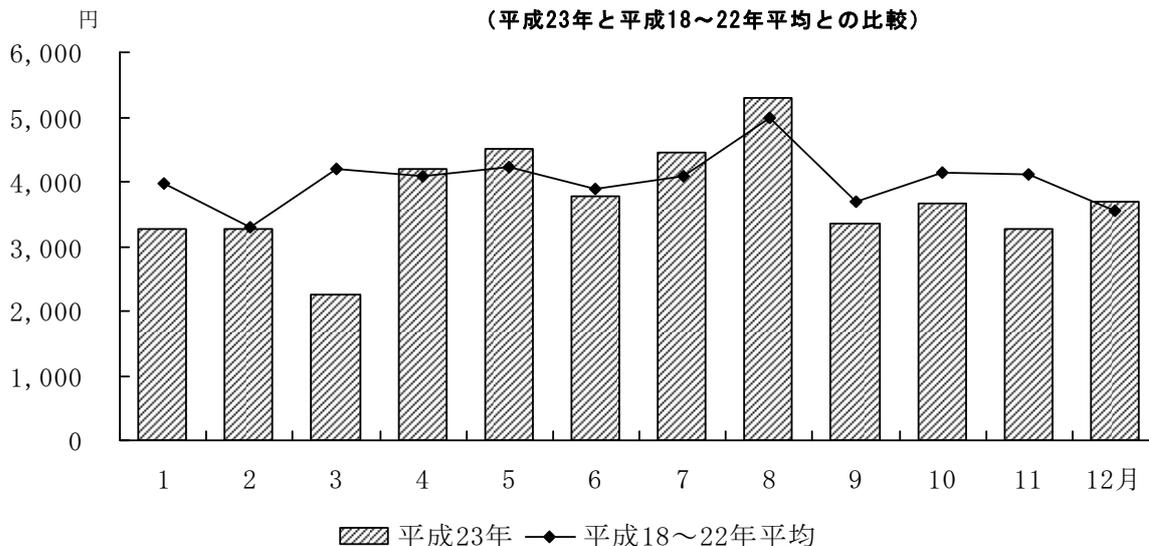
国内パック旅行費についてみると、過去の平均と比べ、3月に大幅に減少したが、8月には過去の平均を上回った。

(図Ⅲ－２－４)

(5) 入場・観覧・ゲーム代（教養娯楽）

図Ⅲ－２－５ 入場・観覧・ゲーム代の月別支出金額の動き

（平成23年と平成18～22年平均との比較）



入場・観覧・ゲーム代（映画・演劇等入場料、スポーツ観覧料、遊園地入場・乗物代など）は、3月の支出金額が一時的に大幅に減少した。

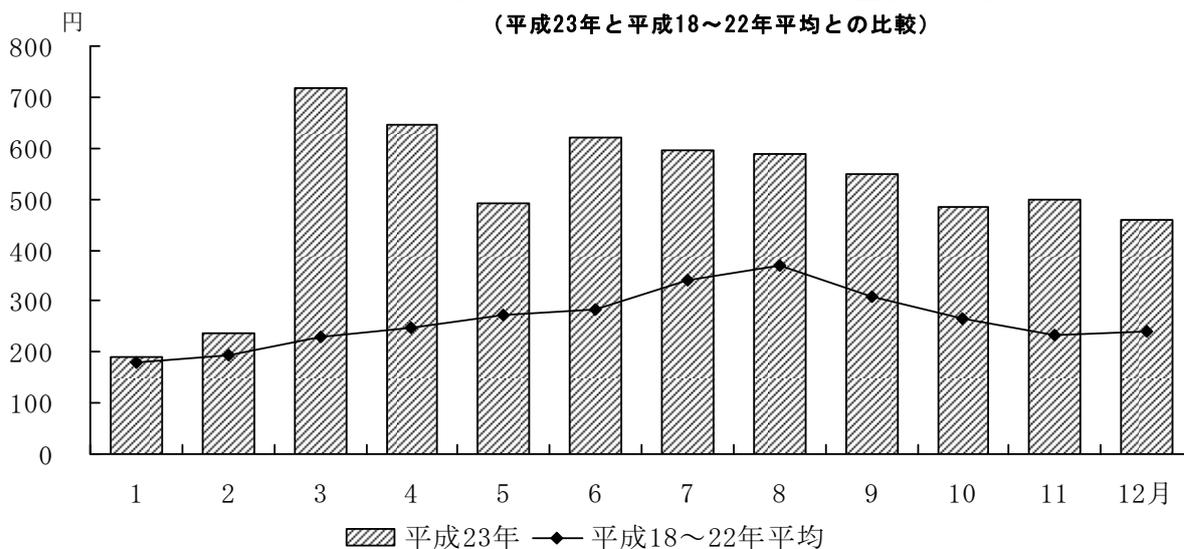
（図Ⅲ－２－５）

3 一時的に支出が増加した後、増加が続いているもの

(1) ミネラルウォーター（食料）

図Ⅲ－３－１ ミネラルウォーターの月別支出金額の動き

（平成23年と平成18～22年平均との比較）



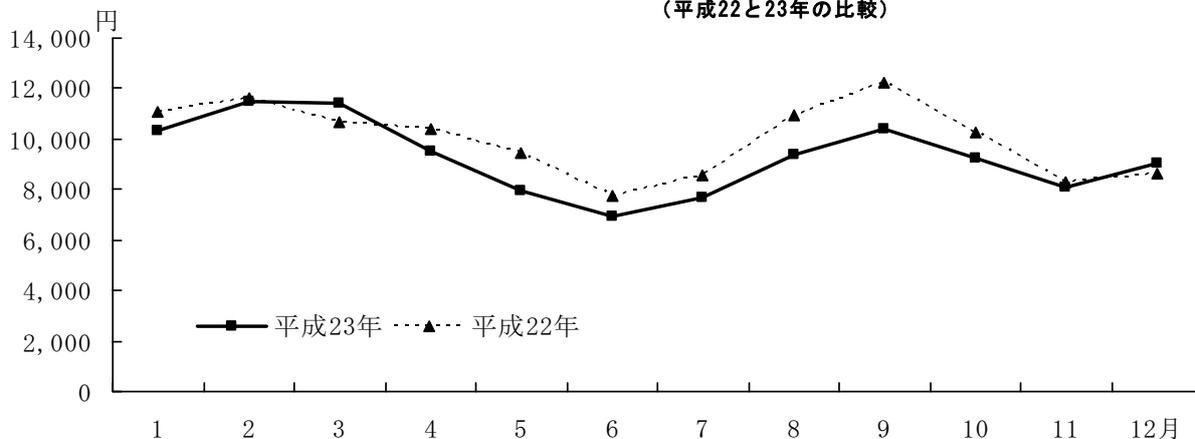
ミネラルウォーターの支出金額をみると、3月に急増し、その後も過去の平均を大幅に上回って推移した。これは、震災への備えなどもあり、増加したものと思われる。

（図Ⅲ－３－１）

4 節電に関連した動き

(1) 電気代（光熱・水道）

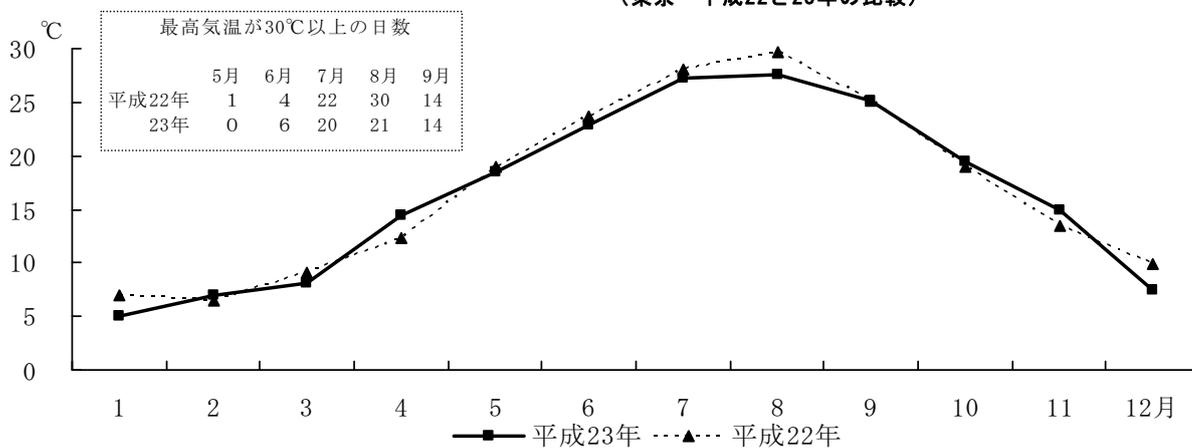
図Ⅲ－４－１ 電気代の月別支出金額の動き
(平成22と23年の比較)



注) 電気代の支払いは、概ね利用の1か月後である。

電気代の支出金額を月別に平成23年と22年で比較してみると、3月支払分(2月使用分)と12月支払分(11月使用分)を除く各月とも平成23年が22年を下回った。(図Ⅲ－４－1)

図Ⅲ－４－２ 月別の日平均気温
(東京 平成22と23年の比較)



資料) 気象庁ホームページ 気象統計情報「月ごとの値 日平均気温・各階級の日数(最高気温30℃以上)東京」

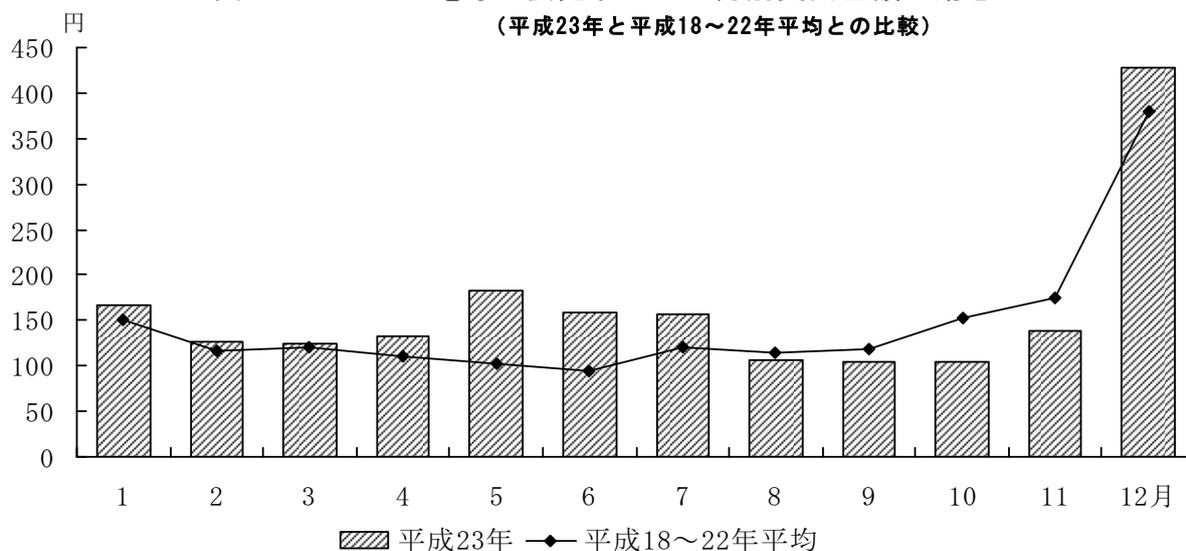
東京の平成23年の平均気温をみると、夏場の真夏日(最高気温が30℃以上となった日)の日数は、平成22年に比べ少なかったものの各月の気温は、ほぼ同じであった。このような状況において、平成23年の電気代の支出金額は、前年を下回った。これは、震災直後から始まった計画停電や夏場の電力不足などを機に、社会的に節電の意識が高まったことも影響していると思われる。

(図Ⅲ－４－2)

(2) 電球・蛍光ランプ (家具・家事用品)

図Ⅲ-4-3 電球・蛍光ランプの月別支出金額の動き

(平成23年と平成18~22年平均との比較)



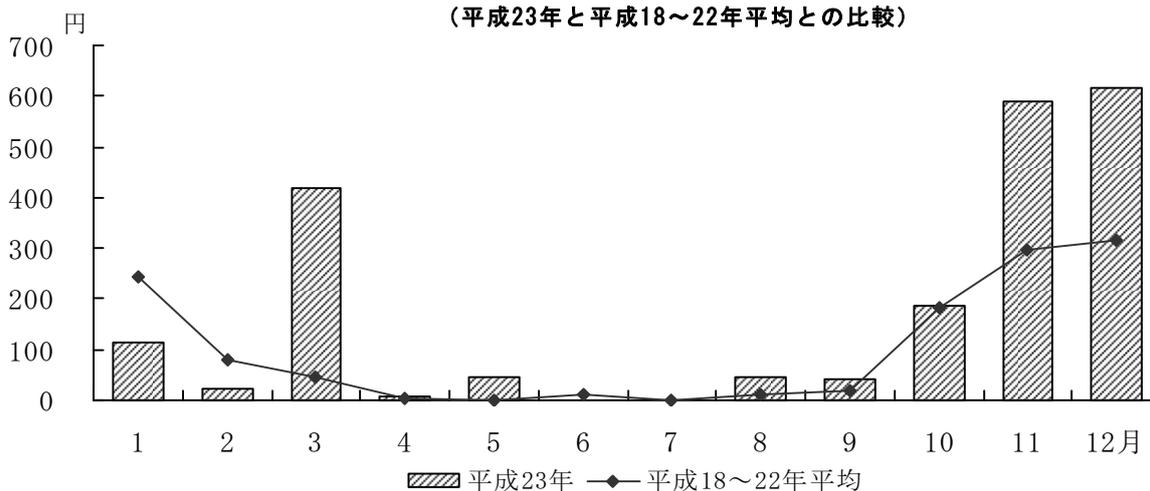
電球・蛍光ランプをみると、5月~7月で過去の平均を上回り、支出金額が最も多い12月においても過去の平均を上回った。(図Ⅲ-4-3)

注) この電球・蛍光ランプの中には、LED (発光ダイオード) 電球等が含まれる。

(3) ストーブ・温風ヒーター、他の冷暖房用器具 (家具・家事用品)

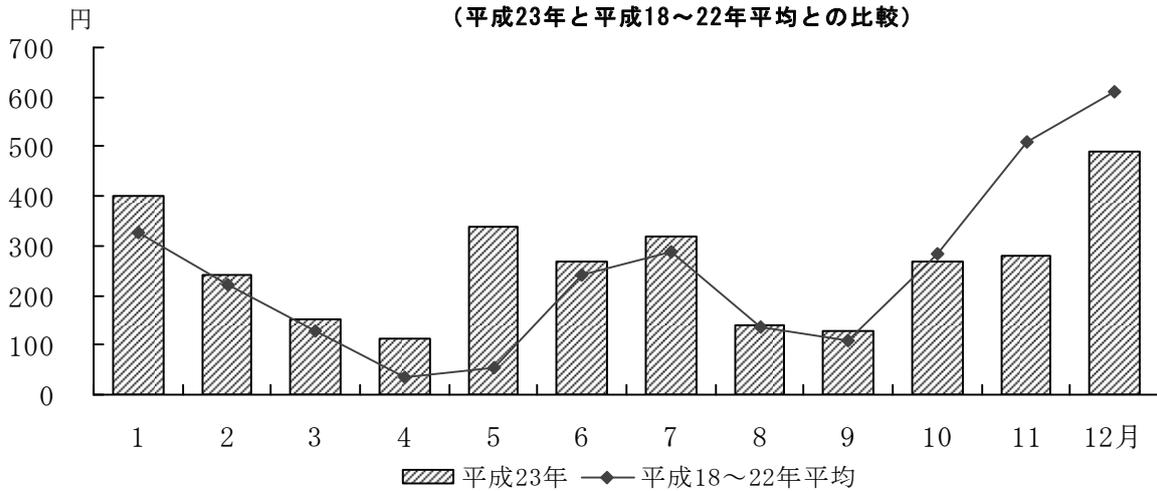
図Ⅲ-4-4 ストーブ・温風ヒーターの月別支出金額の動き

(平成23年と平成18~22年平均との比較)



エアコンディショナに比べて電気の消費量の少ない暖房器具であるストーブ・温風ヒーターの支出金額をみると、過去の平均と比較して、震災のあった3月や、冬場の需要期である11月、12月に大幅に増加した。(図Ⅲ-4-4)

図Ⅲ－４－５ 他の冷暖房用器具の月別支出金額の動き
(平成23年と平成18～22年平均との比較)

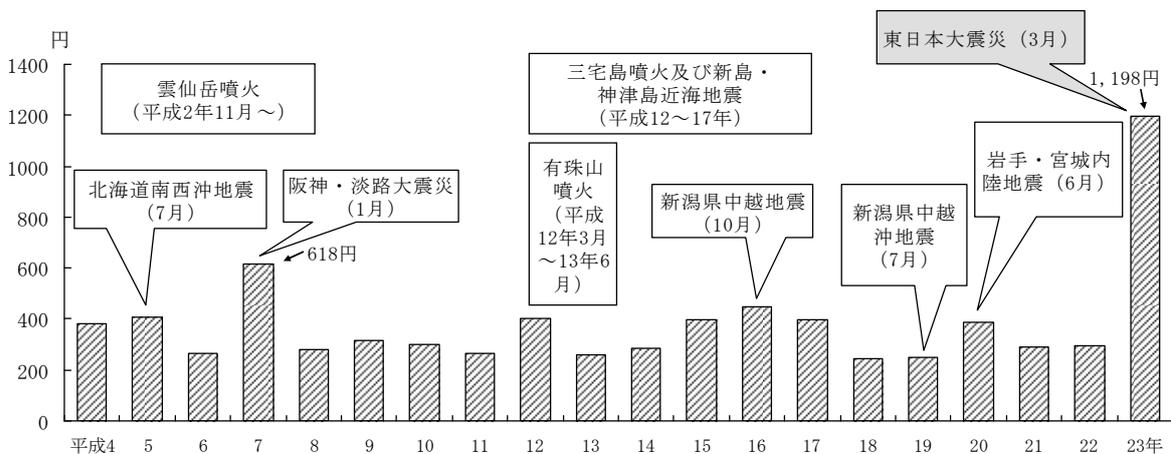


また、扇風機が含まれる他の冷暖房用器具の支出金額は、過去の平均と比べ、5月に大幅に上回った。これは、震災後、節電対策などからストーブや扇風機などの需要が高まったことも影響していると思われる。(図Ⅲ－４－５)

5 過去の震災等発生時と比較

(1) 寄付金 (その他の消費支出)

図Ⅲ－５－１ 寄付金の年平均1か月間の支出金額の推移 (平成4～23年)



注) 出来事は、平成23年版防災白書 (内閣府) を参照した。

表Ⅲ－５－１ 寄付金の年平均1か月間の支出金額の推移（平成4～23年）

（単位：円）

年次	支出金額	年次	支出金額
平成 4 年	381	平成 14 年	284
5	407	15	397
6	264	16	447
7	618	17	395
8	279	18	246
9	314	19	251
10	302	20	388
11	267	21	290
12	404	22	294
13	259	23	1,198

寄付金について、過去の災害等の発生と合わせて平成4年から23年まで20年間の推移をみると、災害発生時に支出金額が高くなる傾向がみられた。このうち、東日本大震災が発生した平成23年の支出金額が突出しており、阪神・淡路大震災が起きた平成7年の2倍程度であった。

（図Ⅲ－５－１、表Ⅲ－５－１）

